

保育の中の年中行事 —— 保育内容の文化論的考察 ——

保育科 民 秋 言

2004年度の教育・福祉研究センター研究助成金の補助をうけて、「保育のなかの年中行事——保育内容の文化論的考察——」をテーマとする研究を実施した。

「保育」というまでもなく「子どもを健やかに育てる営み」である。この「健やか」さは、五領域として掲げられているとおり、子どもの全面的な育ちのなかに求められねばならない。本研究は、その中で子どもの社会的な育ちをまずとりあげ、その他とりわけ「社会化（socialization）」に注目した。ここでいう「社会化」とは「文化（culture）の習得過程」を意味する。

「文化」は一言で表わすには余りにも難しい概念であるが、本研究では、「その社会の中で一般化され標準化された行動様式（behavior

pattern）」と定義する。したがって保育においては「年中行事」がこの「文化」をもっともよくあらわしている内容の一つであるために着目した次第である。

研究方法としては、日頃のフィールドワークを実施している保育園で保育内容の観察を行い、とりわけ「年中行事」をインテンションに調べた。また、研究仲間の研究室所蔵の資料を閲覧した。

この2つによって得たデータを基に収集した関連の文献・資料を整理した。分析はいまも進行中である。

本研究の研究報告は研究論文の形をとって、本学「紀要」あるいはその他学術的方法に掲載する予定である。

乳児保育の方法に関する研究 —— 子どもと保育者の関係を中心に ——

保育科 鈴 木 佐喜子

本研究は、乳児クラスにおいて実施されているさまざまな方法を子どもと保育者の関係を中心に分析し、その特徴、利点と問題点、関与する条件などを明かにすることを目的としている。2004年度は、何らかの形で担当制を採用している0歳児クラスの午前中の食事場面を中心とした保育の

実際をできるだけ丁寧に把握し、分析することにした。対象は公立園1園、私立園3園の0歳児クラス。2004年8月～12月に午前9時30分～午後2時の時間帯に食事場面を中心とした保育について調査を行った。0歳児クラスの保育全体を把握するため、対象児・者を絞らず、すべての子ども